

10. 青少年の薬物乱用問題について

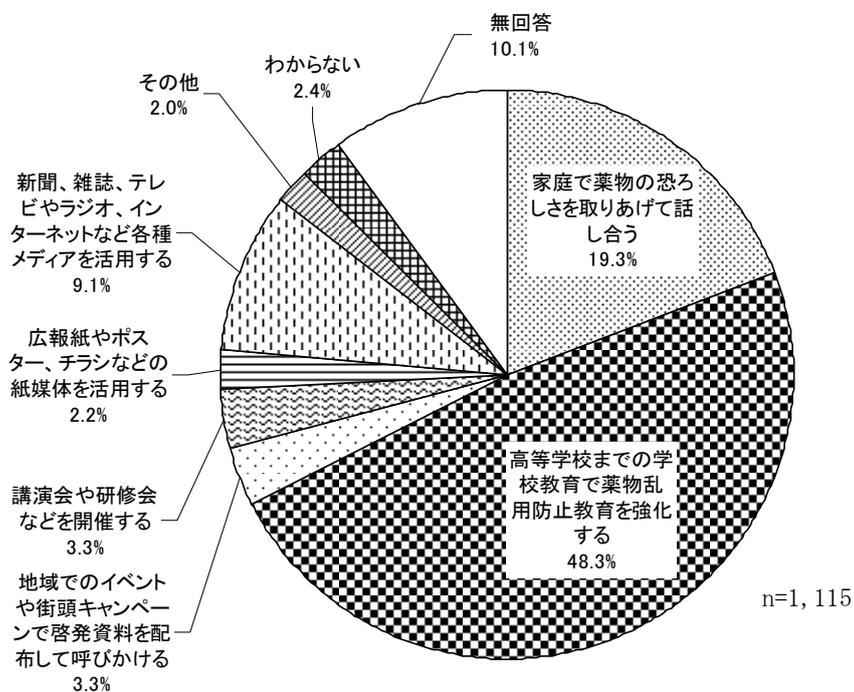
(1) 青少年の薬物乱用防止策

◇ 「学校教育で防止教育の強化を図る」がほぼ5割

問27	青少年の薬物乱用の防止のための意識啓発に最も必要だと思うものはどれですか。 (○は1つ)	n=1,115
1	家族で薬物の恐ろしさを取りあげて話し合う	19.3%
2	高等学校までの学校教育で薬物乱用防止教育を強化する	48.3%
3	地域でのイベントや街頭キャンペーンで啓発資材を配布して呼びかける	3.3%
4	講演会や研修会などを開催する	3.3%
5	広報紙やポスター、チラシなどの紙媒体を活用する	2.2%
6	新聞、雑誌、テレビやラジオ、インターネットなど各種メディアを活用する	9.1%
7	その他	2.0%
8	わからない (無回答)	2.4% 10.1%

青少年の薬物乱用防止の意識啓発方法について聞いたところ、「高等学校までの学校教育で薬物乱用防止教育を強化する」(48.3%)はほぼ5割となり、次いで「家族で薬物の恐ろしさを取りあげて話し合う」(19.3%)はほぼ2割となっている。(図IV-10-1)

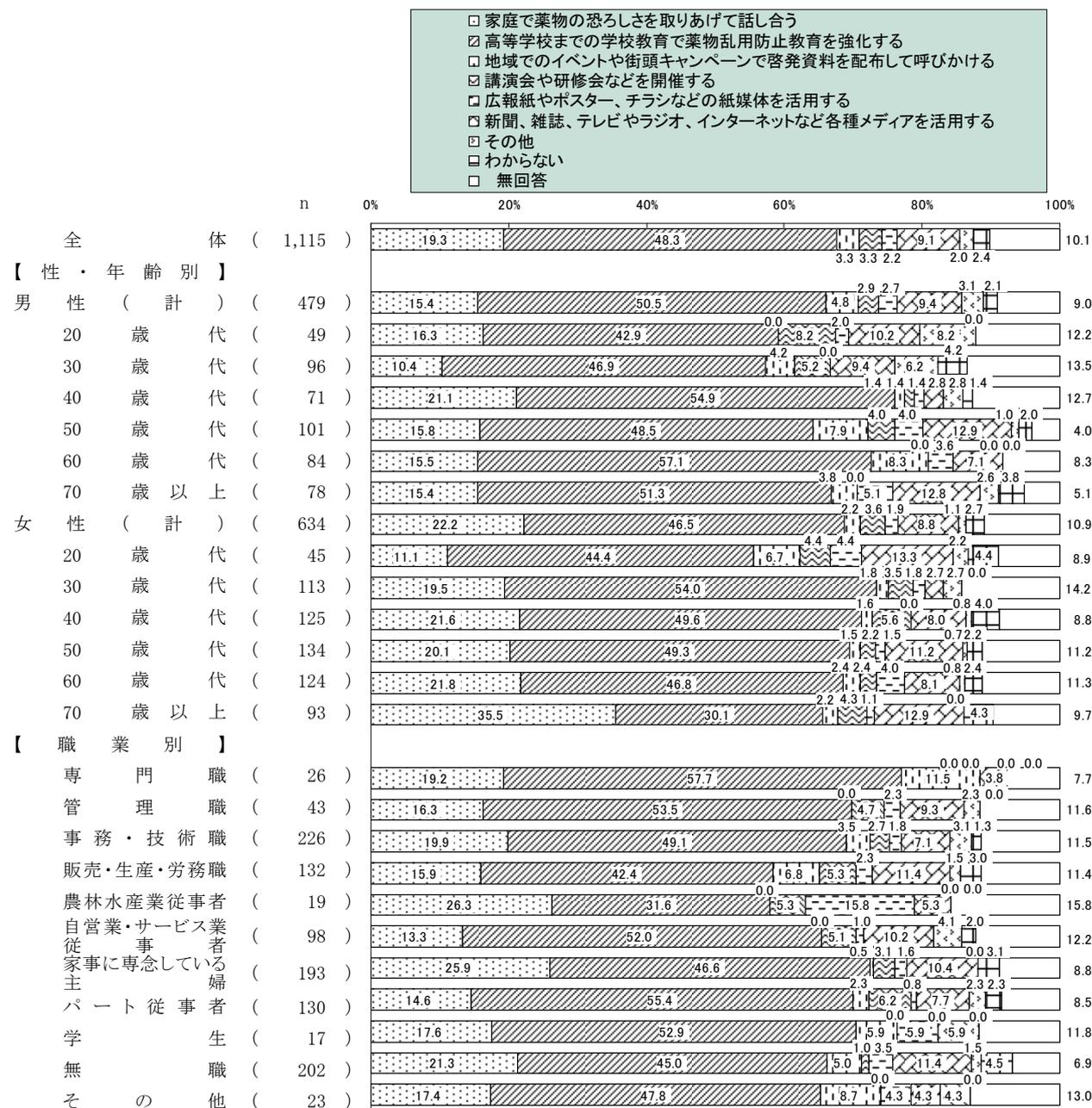
<図IV-10-1>全体



性・年齢別で見ると、「高等学校までの学校教育で薬物乱用防止教育を強化する」は<男性/60歳代> (57.1%) で5割台半ばを超え、<男性/40歳代> (54.9%)、<女性/30歳代> (54.0%)、<男性/70歳以上> (51.3%) で5割を超えている。「家族で薬物の恐ろしさを取りあげて話し合う」は<女性/70歳以上> (35.5%) で3割台半ばを超えている。(図IV-10-2)

職業別で見ると、「高等学校までの学校教育で薬物乱用防止教育を強化する」は<パート従事者> (55.4%) で5割半ばを超え、<自営業・サービス業従事者> (52.0%) で5割を超えている。「家族で薬物の恐ろしさを取りあげて話し合う」は<家事に専念している主婦> (25.9%) で2割台半ばを超えている。(図IV-10-2)

<図IV-10-2>性・年齢別/居住地域別



(2) 良い啓発場所は

◇ 学校や地域の身近な施設がほぼ5割

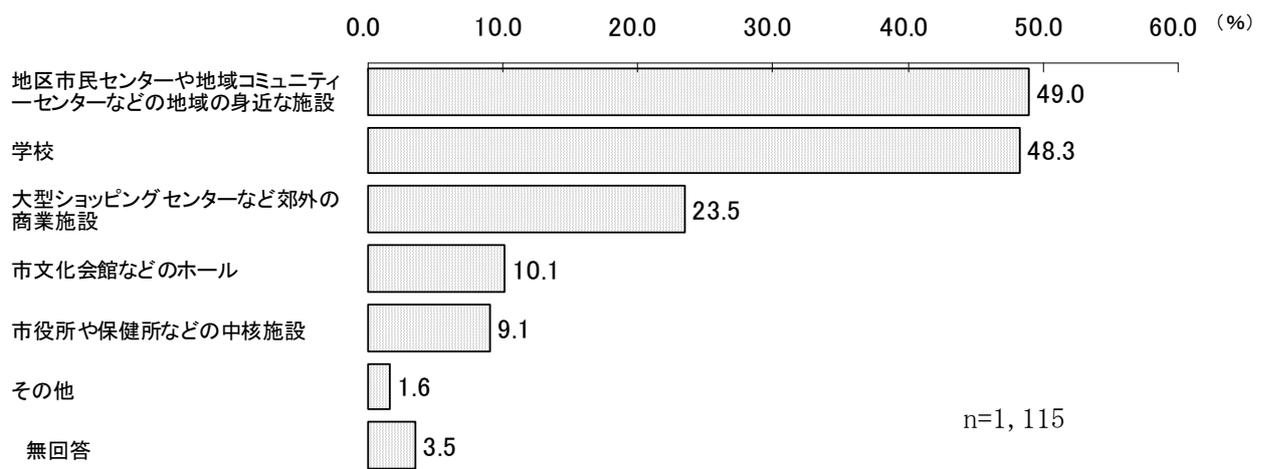
問28	家族で啓発事業に参加する場合、どのような場所が良いと思いますか。(〇はいくつでも)	n=1,115
1	学校	48.3%
2	地区市民センターや地域コミュニティーセンターなどの地域の身近な施設	49.0%
3	市役所や保健所などの中核施設	9.1%
4	市文化会館などのホール	10.1%
5	大型ショッピングセンターなど郊外の商業施設	23.5%
6	その他 (無回答)	1.6% 3.5%

啓発事業に参加する場合に適切な場所について聞いたところ、「地区市民センターや地域コミュニティーセンターなどの地域の身近な施設」(49.0%)はほぼ5割となり、次いで「学校」(48.3%)もほぼ5割、「大型ショッピングセンターなどの郊外の商業施設」(23.5%)がほぼ2割台半ばとなっている。(図IV-10-3)

性・年齢別で見ると、「地区市民センターや地域コミュニティーセンターなどの地域の身近な施設」は<男性/60歳代>(70.2%)で7割を超え、<女性/70歳以上>(64.5%)でほぼ6割台半ばとなっている。「学校」は<女性/40歳代>(65.6%)で6割台半ばを超えている。(図IV-10-4)

職業別で見ると、「地区市民センターや地域コミュニティーセンターなどの地域の身近な施設」は<無職>(58.4%)でほぼ6割、<自営業・サービス業従事者>(51.0%)で5割を超えている。「学校」は<パート従事者>(53.8%)、<家事に専念している主婦>(51.3%)、<自営業・サービス業従事者>(51.0%)、<事務・技術職>(50.4%)で、5割を超えている。(図IV-10-4)

<図IV-10-3>全体



<図IV-10-4>性・年齢別/居住地域別

